

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との関係を深くし、地域の中で利用者の方が安心して暮らし続けれる」を理念に職員全員でサービスの向上に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開所前に職員全員で作成し、理念に基づいたケアの提供を心がけている。開所して半年であるが、理念を共有し実践に向けての取り組みの重要性は理解されている。		今後も職員会議やケア等の中で、理念の浸透ができるように取り組んでほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開所して半年で、地域との交流は十分できていないが、散歩コースである公園の職員との交流や一部の商店の方との交流はでき始めている。地区の役員には働きかけ交流の機会をお願いしている。	○	地域の方にホームを理解していただくため、認知症の理解の説明会や地域の行事への参加など取り組んでほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回外部評価を始めて受ける。職員一人ひとりが自己評価に取り組みまとめ上げている。自己評価や外部評価の課題を今後に生かしたいという意欲がうかがえた。		評価項目で求められている内容を、職員全体で一つひとつ共有し今後のケアにつなげてほしい。

宮崎県宮崎市 グループホーム青島ひかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の役員には、運営推進会議の必要性を説明し働きかけている。協力できる方に依頼し運営推進会議が開催できるように準備している段階である。	○	関係者の理解と協力を得て、運営推進会議が開催できるように取り組んでほしい。地域との交流を図っていく意味でも、是非運営推進会議を活用してほしい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員や地域包括支援センターとの連携の必要性は理解しているが、交流の機会や共に質の向上のための取り組みまではできていない。	○	市の職員や地域包括支援センターの職員に運営推進会議の参加を呼びかけ、協力体制の関係づくりをお願いしたい。また、事業所が直面している課題や独自のサービスの情報提供等を積極的に伝える機会をつくってほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪された際には、利用者の暮らしぶりなどを伝えている。月に1回、家族に利用請求書を発行しているが、利用者の状況やホームの行事等も報告している。心身の状態変化の際には、きめ細かに連絡を取り協力を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方には機会あるごとに意見や苦情を求めているが、家族からの要望は少ない状況である。今後は家族会等も開催し、家族の意見をいただき今後の運営に生かしたいとの意欲的な内容が得られた。苦情相談に対しては、母体組織の苦情相談解決体制を活用されている。		家族会を検討中である。開所間もない状況ではあるが、サービスの質の向上のため是非取り組んでほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による入れ替わりで、利用者に与えるダメージを防ぐ配慮の必要性は理解しているが、対策まではでき上がっていない。	○	利用者・家族のダメージを少なくするように、職員同士がスムーズに交代できる体制づくりをお願いしたい。

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、同法人の協力を得ながら、認知症ケア・救急法等の勉強会を行っている。技術や知識の提供は管理者やサービス担当責任者が、機会あるごとに職員に伝えている。機会を作っては、仕事による悩みや不安も吸い上げ意欲を落とさないよう配慮している。		勉強会や研修の復命書があると、いつでも読み返しができ、職員の質につながるので作成をお願いしたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し定期的な研修に参加している。また、他のグループホームからの訪問は受けている。		同地域の連絡協議会を通じたホームとの職員間の交流も是非組み込んでほしい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を考えている方・家族に対しては、見学をし利用開始につなげているが、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう利用とまでは至っていない。	○	利用者のダメージを少なくし、移り住んで頂く体制として、見学や日中の数時間の利用、試験外泊、職員の自宅訪問等の工夫を是非取り組んでほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で利用者には得意な分野で力を発揮してもらい、感謝し、利用者・職員が共に支えあう関係作りに努めている。親しき仲にも礼儀のように、プライバシーの配慮には十分気を配るように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が常に「本人はどうしたいのか」という視点を持ち、入居時の情報や日ごろの利用者の様子、訴え、家族の思いの把握に努め、ケアにつなげている。認知症のため、なかなか希望の把握が困難な場合は、利用者本位で考え、その人らしく暮らせる支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、計画作成者が家族・利用者から情報を取り、また、ケアを提供している職員と検討し作成している。		介護計画が職員間で十分活用できるように工夫してほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは、毎月行われており、プランの短期目標の期間ごとに評価され、介護計画の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が安心して暮らせるよう、個別の通院や買い物の支援を行っている。外部からの通所やショートステイの受け入れは可能であるが、今のところ利用は無い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの場合、職員が病院に同伴し医師から指示を受けている。くわしく家族に報告している。夜間の緊急体制も取れており適切な医療体制が取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開所したばかりで現段階では、重度化や終末期に向けたケアの取り組みはしていない。管理者レベルでは必要性は感じており、職員との共有をはかり、今後の方向性について検討する予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員に対しては、プライバシー保護の教育は適宜行っている。職員は、ホーム独自で作られた「人権権利侵害」の自己チェック表を定期的にチェックし自己研さんにつなげている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアを提供する際にも無理に進めるのではなく、利用者に確認し進めている。入浴や夜の食事に関して、時間や回数を工夫したいとの意向が聞かれた。この工夫に対し現在パート勤務を入れ調整するところまでに至っている。		利用者の状況等に合わせ柔軟に職員を増員したりシフトを変更することは、ホームの質につながるため是非今後も継続して取り組んでほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は同じ食事を一緒にとり、会話を楽しみながら雰囲気作りをしている。声かけを必要とする利用者のそばに職員が付き、利用者のペースに合わせて見守っている。利用者に応じて、調理の盛り付けや食器の後片づけが行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間や回数は週3回とのことであったが、毎日入浴はできる体勢になっている。入浴日で無い利用者の希望があれば対応している。一人ひとりの対応を行い、ゆっくり入浴してもらえる支援をしている。		職員のシフト変更や職員の増員により、更に充実した入浴の支援ができていくことを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者や家族からの情報を取り個別の支援につなげている。買い物、食事の準備、片づけ、洗濯たたみ、園芸（ナスやトマトの栽培収穫）、散歩と利用者が生活の中で活躍する場面が準備されている。訪問時もギターのおの音が楽しそうに参加していた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	開所して間もないこともあってか、散歩は行われているが、個別に応じた外出の支援は行っていない。	○	利用者数人の外出や個別に応じた外出は、職員体制の関係もあると思うが、外出により得られる刺激はかなり大きいと考えられるため短時間でもケアの中に組み入れてほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることへの弊害は職員に常に伝え勉強会でも取り入れている。徘徊時は職員一人がつき対応している。今までに数回外に出られたが、近隣の方の連絡等もあり協力体制はできつつある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の予定で職員・利用者全員で避難訓練や消火器の取り扱いの訓練をしている。今年度内に、地区の消防署の訓練が組まれており、この結果を基に改善点などに取り組む予定である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容は、栄養士が管理し献立が作られている。箸の活用が苦手な方には、自力で摂取しやすいような調理の工夫がなされたりしている。水分補給も個別に把握され記録に残されている。夜間時の水分補給にも配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集まるリビングは昼間になっており、くつろげる空間となっている。ろうか幅が十分とっており、車いすの方が、行き来して支障のないスペースであった。職員が常に中心におり、ほのぼのとした雰囲気であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みのある利用者はおられるが、持ち込みの少ない部屋もある。居心地よく過ごせるため持ち込みの必要性は家族に伝えお願いしている。		今後も必要性を説明し協力をお願いしてほしい。また、職員の工夫で利用者が居心地よく過ごせるよう配慮してほしい。

※  は、重点項目。